

経営学研究科

【修士論文審査基準】

(学位申請資格)

修士の学位を申請することのできる者は、次に掲げる資格を全て満たす者とする。

- (1) 博士前期課程(修士課程)に2年以上在学し(見込みを含む。)、必要な研究指導を受けた上で、学則に定める修了所要単位を修得する見込みである者
- (2) 在学中である者
- (3) 表1に定める修士論文プロポーザルで報告し、研究科委員会にて修士論文の提出を認められた者
- (4) 修士論文の提出を認められ、表1に定める修士論文報告会にて報告した者

表1 修士論文プロポーザル及び修士論文報告会の実施方法

修士論文プロポーザル	修士論文報告会
① 形式：公聴会形式	① 形式：公聴会形式
② 出席者：研究科教員、修士課程学生及び博士後期課程学生	② 出席者：研究科教員、修士課程学生及び博士後期課程学生
③ 評価者：研究科教員(研究指導教員を含む。)	③ 評価者：主査及び副査
④ 発表時間：30～40分(質疑応答を含む。)	④ 発表時間：30～40分(質疑応答を含む。)

(修士論文の審査)

修士論文の審査項目は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 問題意識が明確である。
 - ・ 明確な問題意識の下での研究テーマの設定
 - ・ 問題意識に沿った適切な問題提起
- (2) 先行研究のサーベイは適切にされている。
 - ・ 先行研究の整理
 - ・ 関連研究における位置づけと学術的意義の明示
- (3) 論文の形式は適切である。
 - ・ 表紙、要旨、目次及び章立て
 - ・ 引用、注及び参考文献
- (4) 論文の論述は適切に行われている。
 - ・ 問題提起から結論の導出までの論旨の一貫性
 - ・ 論文の構成
- (5) 研究の方法論は適切である。
 - ・ 研究の進め方
 - ・ 研究の手法
- (6) 得られた結果の考察が適切である。

- ・学術的意義及び社会的意義について吟味されている。
- ・新規性、進歩性、有用性及び独創性の何れかが示されている。

【博士論文審査基準】

（課程博士学位申請資格）

課程博士の学位を申請することのできる者は、次に掲げる資格を全て満たす者とする。

- （1）博士後期課程に3年以上在学し（見込みを含む。）、必要な研究指導を受けた上で、学則に定める修了所要単位を修得した者（見込みを含む。）
- （2）表2に定める課程博士学位申請基準を満たす者
- （3）在学中である者

（論文博士学位申請資格）

論文博士の学位を申請することのできる者は、次に掲げる資格を全て満たす者とする。

- （1）表2に定める論文博士学位申請基準を満たす者
- （2）研究科専任教員（以下「専任教員」という。）の推薦がある者

表2 学位申請基準

課程博士学位申請基準	論文博士学位申請基準
<p>公刊論文3編以上（うち1編以上は査読付）、かつ、当該研究の属する分野における学会報告3回以上（うち1回以上は全国大会報告）。</p>	<p>① 学術的貢献が顕著な著書（単著）を1冊以上有する者</p> <p>② 上記の①以外の者については、当該研究の属する分野における全国又は国際学会誌に筆頭著者として掲載された査読付論文3編以上を含む学位申請論文（以下「博士論文」という。）を有し、専攻学術に関して広い学識を有する者</p>

（博士論文の審査）

博士論文の審査項目は、次に掲げるとおりとする。

- （1）問題意識が明確である。
 - ・明確な問題意識の下での研究テーマの設定
 - ・問題意識に沿った適切な問題提起
- （2）先行研究のサーベイは適切にされている。
 - ・先行研究の整理
 - ・関連研究における位置づけ及び学術的意義の明示
- （3）論文の形式は適切である。

- ・表紙、要旨、目次及び章立て
 - ・引用、注及び参考文献
- (4) 論文の論述は適切に行われている。
- ・問題提起から結論の導出までの論旨の一貫性
 - ・論文の構成
- (5) 研究の方法論は適切である。
- ・研究の進め方
 - ・研究の手法
- (6) 得られた結果の考察が適切である。
- ・学術的意義及び社会的意義について吟味されている。
 - ・新規性、進歩性、有用性及び独創性の何れかが示されている。
- (7) 自立した研究能力と専門知識を有すると認められる内容である。
- (8) 当該研究の属する分野における国内外の学会等に発表して、その論評に耐え得る内容である。